



魔法少女に憧れる〇学生のミリアは
変身ステッキを買ったために近所のおもちゃ屋に来ていた



ミリア「ロリキュア変身ステッキくださいー！」

店主「おや、ミリアちゃんじゃないか。お金は貯まったのかい？」

ミリア「うんーおばあちゃんからおこづかいもらったんだ！」

店主「それはよかった。このステッキずっと欲しがってたもんね。
町の平和はミリアちゃんに任せだよ」

ミリア「わかったー！」



ミリアっついを買っちゃった〜♪

これでミリアもロリキュアになれるんだ!!

まずは説明書を読まないといつて、まだ習っていない漢字がたくさんあって読めない!! まあ使えばわかるよね

悪い人ってどこにいるのかなあ?

暗くなつてから帰ると怒られるし、パパとママが寝てからこっそり家を抜け出して探そうって

その日の深夜！



ミリア「全然見つからないなあ、明日も学校あるし帰ろうかな…」

あつ！あそこに人がいる！
こんな時間に公園にいるなんて怪しい…
でもまだ何かしたわけじゃないし…
とりあえず話しかけてみよう！」

ミリア「おじさん何してるの？」

おじさん「ん？ああ、家に居場所が無くてね！帰りたくないんだよ
キミこそこんな夜遅くに散歩して大丈夫なのかい？」

ミリア「平気だよ！ミリアは町の平和を守るために
パトロール中だから！」

（このおじさん悪い人じゃなさそうだし、一人で寂しそう
せつかく公園に来たし、ミリアと一緒に遊んであげようか？）

おじさん「本当かい？それならおじさんの秘密基地に行こう」
ミリア「秘密基地？なにそれ！連れてって！」



ミリア「秘密基地つて……ここ男の子のトイレだよね。
ミリアがいて大丈夫なの？」

おじさん「この時間帯は誰も来ないから問題ないよ」

ミリア「ならいいけど！何して遊ぼうか？」

おじさん「お医者さんごっこがいいんじゃないかな。」

おじさんが子供の頃はよくやったんだよ。ミリアちゃんが
病気になってないか調べてあげるから服をめぐってごらん」



「ミリア「これぞいいな」

「ミリアがスカートを持ち上げると少女のものは見えならぬ」ちうじつた下半身があらわになる。

「おじさん「うーん、これはマズいな」ミリアちゃんのロリマンっからスケベなフェロモンが放出されているぞ。早く治療しないと手遅れになるかも」



「ミリア「ちうまんこ？ふえろもん？ミリア病気なの？」

「おじさん「そうだよ。マジサージをして毒素を出したらなるから」ちうじつたね」

男はミリアの敏感な割れ目に指を這わせ、脳内に初めての感覚を刻み込んでいく。

ミリア「んっ♡あっ♡ちよつと…はうっ♡」

おじさん「どうかした？」

ミリア「うう…なんかソコ触られるとヘンな感じるの…」

おじさん「それはマッサージが効いてきている証拠だよ。神経が集中している部分を
じつくりと刺激していくと…ほら、毒素が染み出して来た」



あ…

ん…♡

たゆん♡

たがん♡

ビクッ

むにっ♡

むに…♡

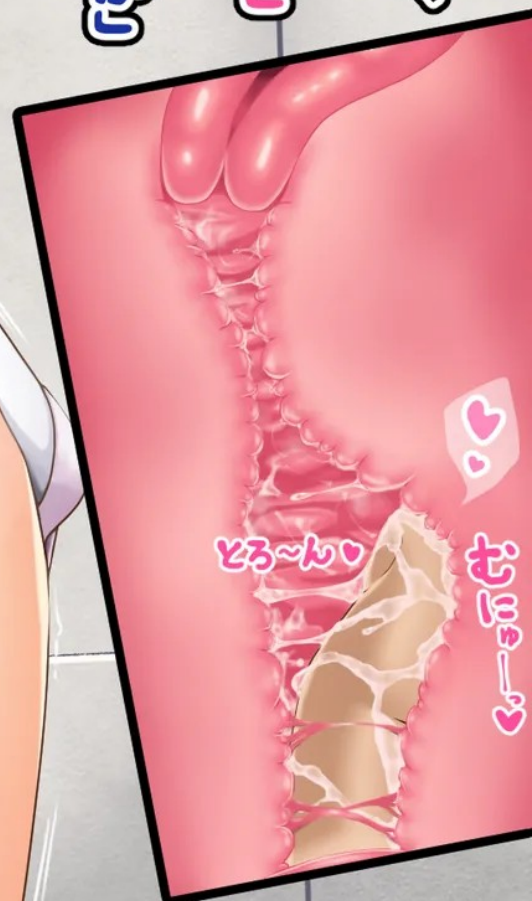
ビクッ

ミリア「んあ…♡ほんとだ…でもパンツ汚したらママに怒られちゃう…」
おじさん「じゃあ脱いじゃおつか。そうすれば内側からもほぐせるしね」

愛液でトロトロになっっているミリアのまんこに
男の指が挿入される。気持ちいい部分を圧迫され、
じんわりと快感が広がっていく。

ミリア「はうっ♡指い…入っちゃってる…んっ♡」
おじさん「ミリアちゃん、腰が動いてるよ。」

止まってくれないと治せないじゃないか」



ミリア「ううん…身体が勝手に動いちゃうんだもん…はやく終わらせてよお…」

経験したことのない快感から逃げようとするミリアだったが
ぶつくりと膨れ上がったクリトリスを掴まれ
ねっとりといじメられてしまう。

ミリア「んっ♡だめっだめなのぉ…♡」

そこっ弱いとこさだからあつ…つまんじやだあつ♡」

おじさん「ミリアちゃんはクリトリスをいじられるのが

好きなんだね。いけない子だなあ」



ハア...

だめっ♡

ハア...

あひっ♡

ハア...

ビクン♡

ビクン♡

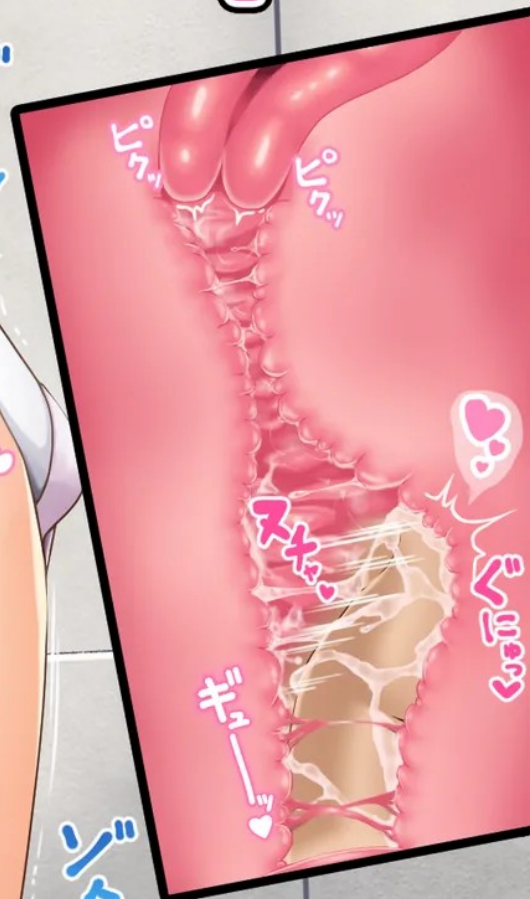
ゾクッ...

くちゅっ♡

ヌクッ♡

ガクガク...

ゾクッ...



ピクッ...

ピクッ...

ヌクッ♡

ギュっ♡

ぐん♡

我慢の限界を迎え、お漏らしてしまいました。ミリアは情けない声を上げながら全身を震わせ快感に身を任せていた。辺りには男の興奮を誘うジーンとした臭いが充満している。

「ミリア「うう...んっ...ああっ...」♡」

おじさん「おいおい、おじさんの身体がびしょびしょに濡れちゃったじゃないかッ! どうしてくれるんだよッ!」

「ミリア「ごめんなさい...でも、おじさんが止めてくれないんだもん...」」
おじさん「これだけのことをして、おいて言い訳とは感じしないなあ」
「はやく拭いてももらわないと風邪ひくちゃうよ!」



ミリアはまだ温もりが
残るパンツで男の股間を
撫でまわす。

おじさん「おおっ♡フーっ♡
いい感じだよミリア
ちゃん……」

ビキッ

さわさわ…

グググッ…

プルプル

ほとんど濡れていない股間を執拗に拭かせる男に
違和感を覚えたものの、汚れてしまった罪悪感から断りきれない。
ミリア「えっとお…もう拭けたと思うんだけど…」
おじさん「ん？ああ、でもまだ中が濡れてるんじゃないか？
全部綺麗にしてももらわないと困るよ」

う…

ドキ♡

ドキ♡

柔らかいパンツの感触は男の性欲を刺激し、股間はみるみる膨張しつづい。

ミリアは始めて見るガチガチに勃起した大人チンポに、本能的な恐怖を感じる。

ミリア「うぐう...臭い...」

近づけてこないでえ
全然濡れてないから
早く服着てよお...

おじさん「そういうわけには

いかないよ。もう我慢
できないんだ
早く舐めてくれ!!」

ボロンッ

ビキッ

ビキッ

ひ...

ミリア「え!? 舐めるの? そんなこと
お医者さんじゃって
しないよ!!
ミリアと遊びたいって
嘘だったの...?」

あう...

ドキ

ドキ♡

ドキ♡

おじさん「ハハハッ!! 嘘じゃないさ。これが大人の遊びだ

ここじゃ助けを呼んでも無駄だし
俺とたっぷり楽しむしか選択肢は無いんだよ!!」

ミリア「助けないで必要ないもんっ!! ミリア強いんだからっ!! このスナックで!!」

カチツカチツ

ミリア「あ、あれ? 変身できない!! なんだえ!!」

おじさん「なにぶつぶつ言ってるんだ? 生意気なこと言う口には栓をしないとな!!」

豹変した男はミリアの頭部をガツチリと掴み
逃げ場を無くした喉奥にチンポを突き刺す

ミリア「うぐっ……んぐっ……!!」

おじさん「うひひっ♡メスガキのヌルヌル
回まんこはたまんねえなァッ!!」

ビクンッ

ドクッ

グホッ

んぐっツツ!!

ドクンッ

ドクッ

ビクッ

グググ!!

ミリア「ぐぐっ……!! ぽっ……!! ぐぐぐ……!! ぐぐっ……!! ぐんぐんぐん……!!」
おじさん「んぐっしたはた暴れてどっしたんだあッ

ミリアは強いんじゃないかねえのかあッ
さっきまでの威勢の良さはどこいったんだよ!!
ただの非力なメスガキじゃねえかッ!!」

ミリアは必死に抵抗するも、その貧弱な腕力では
どうすることもできず、男の支配欲を増大させるだけだった。

ミリア「ひゃっ!!んんんんん!!グボッグボッ!!」

おじさん「ハアッハアッ!!オオッ!!いいぞおミリアッ!!

俺専用のロオオホにしてやるから頑張ってじゃぶれッ!!」

ズボッ

んぶっ

ズボッ

グポッ

ドキ

ヌネッ

ドキ

グイッ!!

ドキ

ドキ

ミリアの小さな口内で行き場を無うた舌は、男のチンポを舐めつつも
射精感を高めていく。

おじさん「うおッ!!裏筋に舌がねっつり絡みついできやがるッ!!

そんなに精液が待ちきれないのか 口のロまんこはッ!!」

ミリア「んぶッ!!んんんんん!!グボッグボッ!!」

おじさん「フーッ!!フーッ!!もう限界だッ!!ミリアの望み通り

喉奥に射精してやるからなッ!!全部飲み干せよッ!!」

男は逃げ出そうとするミリアの頭をパンパンに膨れ上がったチンポは

フビュッ...



ユツ

フル



ビクッ

ドーナツ



ユウウウッ!!

ビクッ

ビクッ

ビクンッ

「ドンドン……ドンドン……ドンドン……」

おじさん「ぬおおッ!!スッゲー締め付けッ!!搾り取られるッ!!」

ミリアの口内には濃厚なオスの臭いが広がり脳を痺れさせていく。

おじさん「フーツ!!フーツ!!メスガキの喉奥にマーキングするの最高ッ!!」

じっくり味わって反省しろよッ!!!

「ミリアはほっけほっけ...もう...もう...もうかえりてえ...」

ミリアは喉に絡みついた精液をやつこの思いで飲み込むと弱々しい声で懇願する。

フッ!!

ピクッ...

ズビュッ...

ビュルッ

ガッ

ガッ

ジュルル...

ぐりぐり♡

ぐりぐり♡

たぷーん♡

ピクッ...

ピクッ...

「ミリアはほっけほっけ...もう...もう...もうかえりてえ...」

おじさん「うーん たしかに明日も学校あるだろうし」

親後さん「心配するだろうからなあ...どうしようかなあ...」

考える素振りを見た男にミリアは希望を持ったが

それを消し去るように目の前のチンポは大きさを取り戻していった。

おじさんこんな極上ロリまんこが目の前にあるのに
使わないで帰すわけねーだろッ」

ギラついた視線が自分の股間に注がれているのに気づき
ミリアは本能的に男の思惑を察する。



だめえ…♡

ドキ♡

ドキ♡

ゴクッ

ドキ♡

たゆん♡

ムチッ♡

ぬらぬ…♡

ねとが…♡

ムチィ…♡

ビキッ

ビキッ

ミリア「だめえッ!!そんなおっきいの入らないのおッ!!

今やめてくれたらミリアにいじわるしたこと

ママに言わないであげるからっ!!」

おじさん「ハッハッハ!! 俺はこのままだとミリアのママに

怒られちゃうのか?それは怖いなあ(棒読み)」

パンパンに張った亀頭がミリアの未使用ロリまんこに挿入されていく。

ミリア「いぎいッ!?んあッちめッ!!ぬいてえッ!!」

おじさん「ぐおおおおッ!!なんつー狭さッ!!さすがロリまんこだッ

ギッチギチに肉ひだが詰まってやがるッ!!」

ミリア「むりなのおッ!!おつきすぎるからあッ!!」

フーッ!

いぎいッ!!

フーッ!

フーッ!

うぐっ...

ピクッ

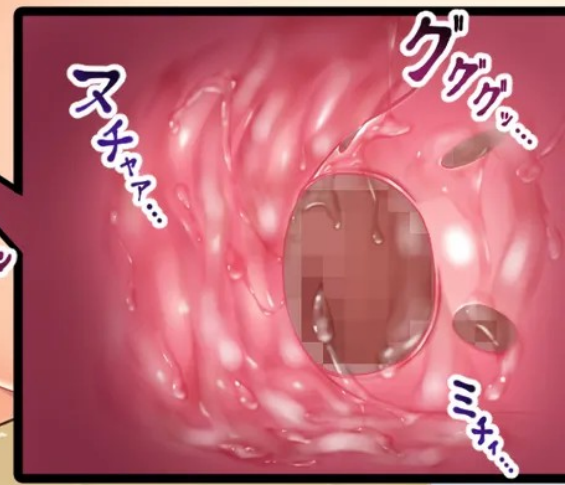
ピクッ

ピクッ

ネチ...

ズブ ブ...

ピクッ



おじさん「なーにが無理だよッ!!とろつとろにマン汁溢れさせやがってッ!!
俺とのセックスが待ちきれなかったんだろッ!!」
ミリア「んほおッ!!ちがうからあッ!!やめてえ!!
中にッ硬いの入ってきてるのおッ!!フーッ!!フーッ!!」

ミリア「おぐツ!!奥にあたってるからあ!!行き止まりなのお!!

おじさん「始めてなのにこんなにずっぱり怪え込んで

ミリアはとんだドスケベなッ!!

だめ♡

ん
お
♡

だめっ♡

ビクッ

ガ
ミッ

キュンッ♡

ン!!

ビクンッ

グ
グ
ッ
...



♡...+!!

＃、え～～♡

だめ♡

あ^っ
あ^っ
♡

ビクン

ぷるん♡

メススイッチを入れられたロリまんこは、うねうねとチンポに絡みつきの形状を記憶し始める。

ミリア「そこおッ!!んおッ!!へんなかんじするからッだめっ♡だめっ♡」
おじさん「フーッ!!フーッ!!かなり馴染んできたなッ」

そろそろ俺も楽しませてもらうぞッ!!

ビクッ

男はオスとしての本能に従って交尾を開始し、凶悪な形をいたかりで
膣内を掻きまわしてミリアの思考力を鈍らせる。

ミリア「おほっ♡ゆづり♡はやいのだめ♡バカになっちゃうから♡♡」
おじさん「ハアッハアッ!! こんでもねー気持ちよさだッメスガキのくせに
精液搾り取るうとしてきやがって!! 絶対種付けしてやるから
覚悟しとけよッ!!」

だめえッ!!

ボコッ!!

ヌチャッ

ヌチャッ

ミリア「たーねっけ!! っんっ♡ふっ♡おおッ♡」
おじさん「赤ちゃんの素を注ぐってことだよッ!!」

ミリア「おじさんの中にある赤ちゃんの部屋にたっぷりとなあッ!!」

ミリア「やだッやだッ!! 赤ちゃんやだあッ!! 奥だめなのおッ!! ぬいてえッ!!」

快楽に支配されつつあったミリアは、種付けされるといふピンチから抜け出すために必死に抵抗する。
しかし、ミリアが抵抗すればするほどチンポの硬度は増じ、射精の準備が進んでいった。

おじさん「ああッ!!もう我慢できねえッ!!イクぞ!!フーッッ!!
奥にとっぷり種付けするぞッ!!出るッ!!出るッ!!」
ミリア「だめえッ!!だめなのおッ!!出さないでッ種付けやだああッ!!」
限界まで溜め込まれた精液はチンポを駆け上り
目の前の子宮に種付けを開始する。



ミリアは健気に腰をすうして逃げようとするが、力では勝てるはずもなく
どろっとした子種汁を受け止め続けるしかない。
おじさん「フーッ!!フーッ!!孕めッ!!孕めッ!!」
ミリア「やらあッ!!種付けッむりなのおッ!!ぬいてえええッ!!」
男は射精が終わったあと、子宮口に亀頭を押し付け、精液の味を覚えさせていく。

おじさん「まさかメスガキとおまんこでできる日が来るとはなあッ!!
生きてりゃいい事あるもんだぜ」

ミリアは自分のマンコから垂れてくる精液を見て涙をいぼす。

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

あひゃ...

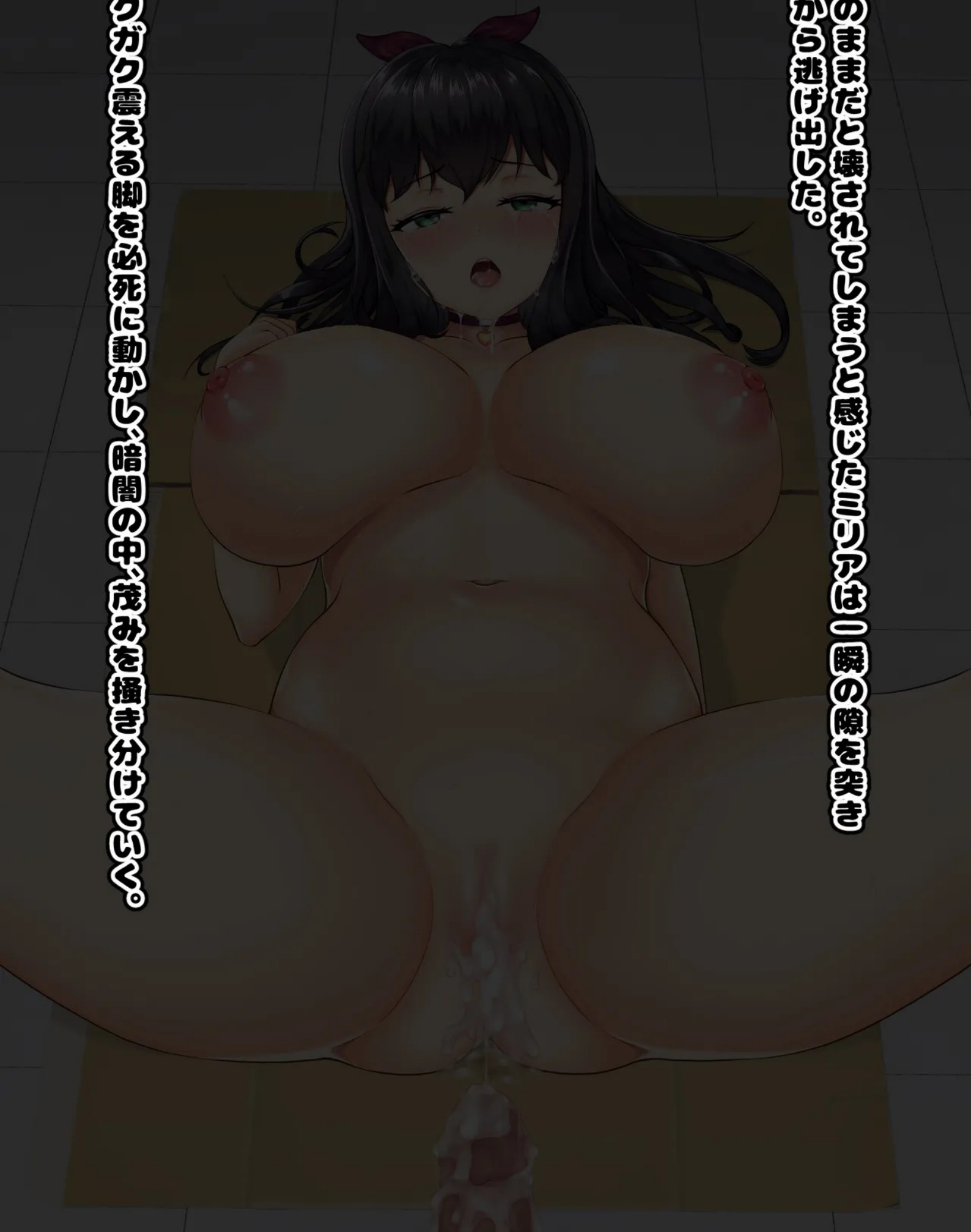
あひゃ...

ミリア「うっ...うぐう...なんでえ...何で出しちゃうのぉ...」

おじさん「なんでって、妊娠に適したメスがいたら種付けするのがオスの使命だからだ
まだ明るくなるまで時間があるし、俺の金玉が空になるまで
付き合ってもらおうぞ...ってオイッ!!!」

このままだと壊されてしまうと感じた三ツツは二瞬の間を突き男から逃げ出した。

ガクガク震える脚を必死に動かし、暗闇の中、茂みを掻き分けていく。



「ミリアはあッ…はあッ…なんとか家まで帰ってこれた
やっぱりあのおじさん悪い人だったんだ！」



「今日のことママとパパに言ったら、ミリアが夜遅くに
出歩いてたことがバレて怒られちゃうよね…
外で遊ぶの禁止とか言われたらどうしよう…
内緒にするしかないかな…」

「無事帰宅できた安堵感からか、ミリアは背後の気配に気づく
ことができなかった。」

「ママ…パパ…ミリアの家かぁ…まだまだ楽しめそうだな」

翌日 学校

ミリア「昨日は何で変身できなかったんだろう」

変身できてたらおじさんをやっつけられたのにっ!!」

ミリアは分からない漢字を調べながらステッキの説明書を読み進めていく。

「魔法少女変身ステッキ」

このステッキを持っていると感度が高まり
痛みに強くなります。

裏面に記載されているセリフを読み上げた後に
スイッチを入れると魔法少女に変身できます。

※変身には太陽光を利用した充電が必要です。



ミリア「充電してからじゃないと使えなかったんだ」

セリフも覚えたいし、これでいつ悪い人を見つけても戦えるね!」

キーンコーンコーンコーン

ミリア「あっ授業が始まっちゃう!!準備しないと!!」

ミリア（結局昨日はお風呂に入れなかったし汗で身体がベタベタしてる...
そういえばおじさんが種付け？ってやつでミリアの中に出した赤ちゃんの素は
洗えてないし、まだ中に残ってるのかな！



たぷ〜ん♡

ぽよん♡

どき♡

どき♡

赤ちゃんできちゃったらミリアはあのおじさんと
結婚しなきゃいけないの？絶対にイヤだよっ！

ミリアは男の精液を掻き出すため、自分の股間に手を伸ばす。



ムチッ

むわっ♡

むわっ♡

ムチッ

ムチッ

ミリア(へんっ!! あっ♡ 昨日おじさんにいじられたとこが変な感じする...!)
膣内から早く精液を取り除かなければいけないはずのミリアの指はぐいぐいとで止まり、快楽を求め始めた。
ミリア(はひっ♡ うっうっ!! ダメなとこさなのにつ さわるの我慢できないの...!)



ミリア(へんっ!! あっ♡ なんてこんなにかもちいのおツ!! ぐせになっちゃうっ♡♡)
勃起したクリトリスを刺激するとべじわじわとした甘い感覚と共に膣からねばついた愛液が漏れ出す。
覚えたての自慰行為に夢中になっていたミリアは、パンツにできた染みに気づき急いで脱ぎ始めた。

ミリア(授業中なのにパンツ履いてないのバレたら大変なことになっちゃう...! 気づかれる前に赤ちゃんのを全部出しちゃうわね!と... んんっ♡はあッはあッ頑張つて外に出してるのにっどんどん奥から溢れてきちゃうっ) 膣内で男の精液とミリアの愛液が混ざり合い、いやらしい音を立て始める。



ミリア(音ッ出ちゃってるっ バレちゃうからあ♡ ゆっくりしないといけないのにっ) 指が止まらないのぉ♡♡♡

芽生えたばかりの快感に抵抗できるはずもなく、指の動きは加速する。 気持ちいいポイントを探っていじり、快楽神経を育てていく。

ミリア(あひっ♡いっ♡むっ♡!! つよすぎるのっ♡だめっだめなやつきちゃう♡♡じゅわんからあちゃうっ!!) (==)



ミリアの脳内に残る微かな理性がアクメ声を押し殺す。



とまってえッ!!
きもちいのがッ
とまらないのおおおッ!!



「ミリアはひっ♡ふっ♡へっ♡へっ♡♡♡ ふーっ♡!!ふーっ♡!!」
「ミリアはなんとかがククメの海から抜け出す経験したことのない絶頂の感覚に恐怖を覚えた。
「ミリアううっ♡♡♡ミリアおかしくなっちゃったんだ!!あのおじさんに!!おかしくされちゃったんだ!!」



「ミリア」とりあえず赤ちゃんの素は全部出せたとと思うけど...

さっきの気持ちいやつまたやりたい!!もう少しっ♡♡♡いじってみようかな!!

ダメダメッ!!そんなんじやッ!!ミリアは魔法少女だもんッ!!

悪い人の思い通りにはならないし、絶対負けないんだからッッ!!

ある日の放課後

ミリアは自宅の前に見覚えのある人影を発見する
まさかと思つて顔を覗くと、あのときの男だった。

ミリア「おじさん……だよね？ なんですミリアのおうち知ってるの？」

おじさん「この前はミリアの家を特定するためにわざと迷がしたのさ
どうやら俺のことをママに言わなかったようだな

どうせ失うものなんてないし、通報してくれてよかったんだが」

ミリア「別におじさんのために言わなかったんじゃないもんっ」
おじさん「ふん、まあいい 今日はお親の帰宅が遅い日だろうっ

戻ってくるまでたつぷりと時間があるし
中に入つてこの前の続きをしようじゃないか」

ミリア「家族の出入りをずっと見られてたつてごとき？
このおじさんを放つておいたら、他の人に迷惑かけちゃうかもしれないし
いいでミリアがやつつけないで!!!」

ミリアはステッキを取り出し、変身台詞を口にする

ミリア「ロリキュア・ラブチャー・ジッ!!!」



まばゆい光がミリアの身体を包み込み真の姿が現れる。

ミリア「響える機械の音色ッ キュアバイブッ!!」

おじさん「キュアバイブッ? その格好ッ? お前魔法少女だったのか!?
クソッ油断した!! 俺が悪かった!! 見逃してくれえ!!」

ミリア「もう遅いよっ! ミリアがやめてっって言ってもやめてくれなかったんだから!!
悪い人は絶対に許さないっ!! うりやーっ!!」

ミリアの鋭い一撃が男の腹部に衝撃を与える……ハズだった。

っすん。

ミリア「はへっ? あれ…? なんて倒れないの……?」



「ミリア」うぐう... なつなんでも...

魔法少女が負けるなんてありえないのにつ!! 早く放してよ!!」

おじさん「フハハハッ!!」どらせやがつて!! 変身しても肌の露出が増えただけで能力は女児のままじゃねえかッ!!」

男はミリアの正拳突きを受け止めた後、硬直する少女を軽々と担ぎ上げ家の中に押し入ったのだった。

バタバタ

ドキ

いや...♡ あ...♡

ガシッ

だめ...♡

ドキ

ビクッ

ググッ...

ね...♡

ビキッ

グイッ

ニャー ドン

「ミリア」うそめ!! アニメで見てたやつと全然ちがう!! こんなはずじゃ... うう...」おじさん「さつきはよくもやってくれたなあ!!」

暴力には責任が伴うということを教えてやるよ!!」

男はミリアの太腿を抱え込み、ガチガチに勃起したチンポを幼いマンコに擦り付ける。

「ミリア」ひゃっ... いやっやめてえッ!! だめだめッ!! パンチしたの謝るからあッ!!」

ミリア「ひぎゅっ!!」 ぞじゅ!! ちがうのおおッッ!!

ミリアの予想に反しパンパンに張りつめた亀頭が向かった先は
マンコではなくアナルだった。

おじさん「ちがうマンコだったからよかったのか？」

ミリアは交尾を期待してたのかもしれないが
まずは俺を殴ったことに対するお仕置きが必要だろッ!!

ミリア「ぬいでえッ!! フーッッ!! 無理ッ!! 無理だからあッ!!」

「いれるところじゃないのぉおおッッ!!」
チンポは杭のようにアナルに突き刺さり
メリメリと押し広げながら内部に入っていく。



おじさん「うおお!!」ロリはアナルもキツキツだな!!
ぎゅぎゅぎゅ締め付けて射精感を高めてきやがる!!
腸液が締めつき、滑りが良くなったチンポは上下運動を始め
腸壁越しにミリアのポルチオを圧迫していく

ミリア「おしりで気持ちよくなっちゃういけないのに!!」
おじさんのおちんちんでゴリゴリされるとキュンキュンしちゃうの(っ)
ミリア「ぎぎぎ」はひゅっ♡ ゆいっ♡ゆいっ♡にゅっ♡おっ♡



おじさん「オラマッ!!」こいつが欲しかったんだろッ!!魔法少女の任務は
おっさんにアナル犯されることだもんなあッ!!」
ミリア「ちがうの(っ)!!まほっ!!」はっ!!平和をっ♡うん♡あひっ♡
おじさん「フッ!!フッ!!」ミリアのタママンッ!!
締まるッ締まるッ!!刺激やばすぎッ!!
もう我慢できねえッ出ちまいそうだ!!アナルに精液いっぱい
ぶちまけてやるからなッ!!受け止めるよミリアアッ!!」

「ミリア」あひつ♡だめ♡ そんなところにつ だしちゃうだめなのぉ♡♡♡

「ミリア」の言葉は男に届かず、チンポは精液を放出し始める。

「おじさん」うおおおッ!! フーッ!! ロリアナルにたっぷり射精してやるッ!!

「ドロッドロの精液流し込んでやるッ!!」 あつがたく受け取れよッ!!

「ミリア」おぁっ♡ひゃあっ♡もうっ♡はいらないからぁ♡ いっぱいっ♡はいなのぉ♡♡♡

オオッ!!

あひゃっ♡♡♡

ガクッ

ジュッ♡

フビュッ
ドクッ

ズッ♡

ドクッ
ハルルッ

ヒクッ

ジュッ♡

ドクッ

ジュッ♡

ガク

ガク

ジュッ♡

あひゃっ♡♡♡

ヒクッ

「おじさん」んハアッハアッ!! おまんこからエッチな汁が垂れてきてるぢやないかッ!!

「もじかし」おじり犯されて発情しちゃったのかッ!!

「ミリア」フビュッ♡フビュッ♡ そんなわけっ♡ない♡♡♡

「これはっ汗だもんっ」 激しくするから汗かいてるだけだもんっ♡♡♡

「間接的にポルチオを刺激されたマンコは、ミリアが意識せずとも

チンポを受け入れるための準備を整えていた。」

チンポを勢いよく引き抜かれたアナルからは、恥ずかしい音と共に
精液が漏れ出し、辺りにオスの香りを充満させる。

「ミリア「おっ...おっ...♡ だめえ...きいちゃだめなのぉ...♡ とまらなからあ...♡」



おじさん「人前でアナルから精液垂れさせて恥ずかしいのかおっ!!
これが平和を守る魔法少女の姿か...」

「ミリア「おっ...おっ...♡ だめえ...きいちゃだめなのぉ...♡ とまらなからあ...♡」

羞恥心は「このハッという攻撃に反抗する能力を奪い取った。」

男はベツドの上にミリアを押し倒し、熱くなったチンポをマンコにねちっくく擦り付ける。

おじさん「まったく!! 脳みそはガキのくせになんだこのエッロい乳と尻はツ!!」

加えてアナルも極上って男に奉仕するただけに生まれてきたんだなツツ!!」

ミリア「うぐう... そんなことないもん... おじさんなんて大っ嫌いだから早く離れてよお...!!」

おじさん「うハハハッ!! マンコをヌルヌルに濡らしながら拒絶しても説得力がないんだよツ!!」

スケベ汁出すのを止めないと割れ目にチンコが吸い込まれちゃうぞ...」

男はベロの上でミリアを押し倒し、熱くなったチンポを
 おじさん「まったく！ 脳みそはガキのくせになんだこのエ
 加えてアナルも極上って男に奉仕するただけに
 ミリア「うぐう…そんなことないもん… おじさんなんて
 おじさん「フハハハッ！！ マンコをヌルヌルに濡らしながら
 スケベ汁出すのを止めないと割れ目にチンコが

ミリア「それだめッだめなのッ 変になっちゃうやつだか
 求めてはいけないと頭で分かっているけどミリアの
 懸命に愛液を分泌させチンポを迎え入れる。

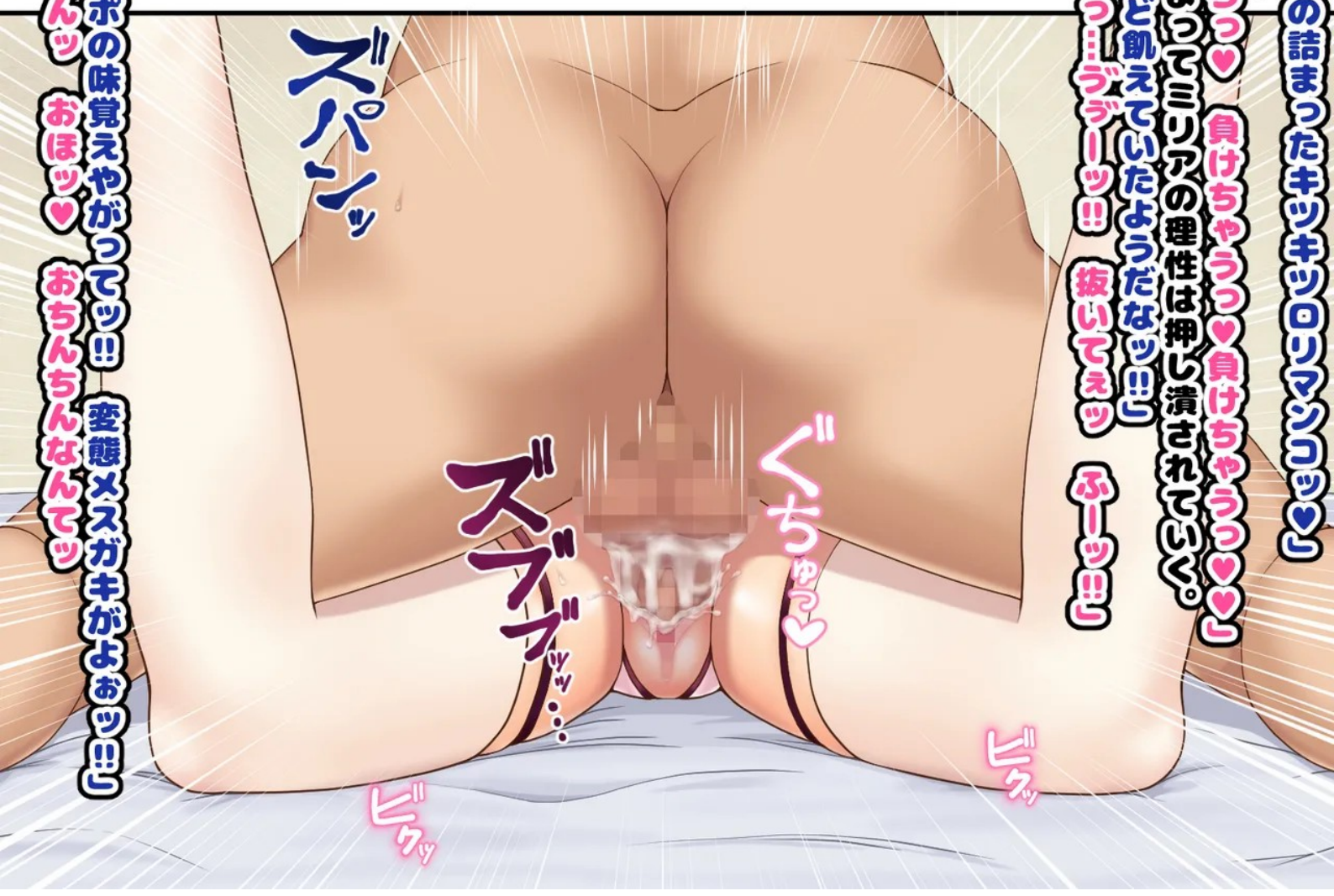
ん…♡
 ドキ
 ドキ
 むにゅ〜♡

[illegible]



おじさん「うひゃーッ♡ っしだよっし!! みつちりと肉の詰まったキツキツロマンシム♡」
「ミリア」ぶーッ!!ぶーッ!! つよすぎるからッ♡ うぐっ♡
「おちんちんのことしか考えられなくなっちゃうからッ♡ 負けちゃうッ♡負けちゃうッ♡♡♡」
自分の指とは比べ物にならないサイズのチンポによつてミリアの理性は押し潰されよう。おじさん「腫肉がにゅるにゅる絡みついてくるッ♡ よつほど飢えていたようだなッ!!」
「ミリア」ふーッふーッ!! だすげでっ♡ おっ♡♡♡ うぐっ♡うぐっ!! 抜いてえッ♡ ふーッ!!

おじさん「この吸い付きッ♡ ロマンシムのせにッ♡ チンポの味覚えやがってッ!! 変態メスガキがよおッ!!」
「ミリア」ちがうッ♡ ふひっ♡♡♡ 「ミリア変態じゃないもんッ♡ おほッ♡♡ おちんちんなんてッ♡ いうないからあッ!!」 はひゃーッ♡♡♡



「おちんちんのことしか考えられなくなっちゃうからッ♡ 負けちゃうッ♡負けちゃうッ♡♡♡」
自分の指とは比べ物にならないサイズのチンポによつてミリアの理性は押し潰されよう。おじさん「腫肉がにゅるにゅる絡みついてくるッ♡ よつほど飢えていたようだなッ!!」
「ミリア」ふーッふーッ!! だすげでっ♡ おっ♡♡♡ うぐっ♡うぐっ!! 抜いてえッ♡ ふーッ!!

おじさん「この吸い付きッ♡ ロマンシムのせにッ♡ チンポの味覚えやがってッ!! 変態メスガキがよおッ!!」
「ミリア」ちがうッ♡ ふひっ♡♡♡ 「ミリア変態じゃないもんッ♡ おほッ♡♡ おちんちんなんてッ♡ いうないからあッ!!」 はひゃーッ♡♡♡



おじさん「おいミリアアツ!! 魔法少女は負けないんじゃないんじやなかったのかあ？」

ミリア「ひゅっ♡ ごめんなひゃいッ
ミリアの負けっ負けでしゅっ♡♡

もうひどいことしないでください♡♡♡

おじさん「ひどいことだあ?」
「そう、というわりには随分と楽しんでたみたいじゃないか」

被害者面しているが、本当はおまんこするのが大好きなんだろ？ツツ？

ぐりっ！

ホビ

ねとま……

 $\frac{1}{\sqrt{2}}$
$$\frac{1}{k_y}$$

ソク

7

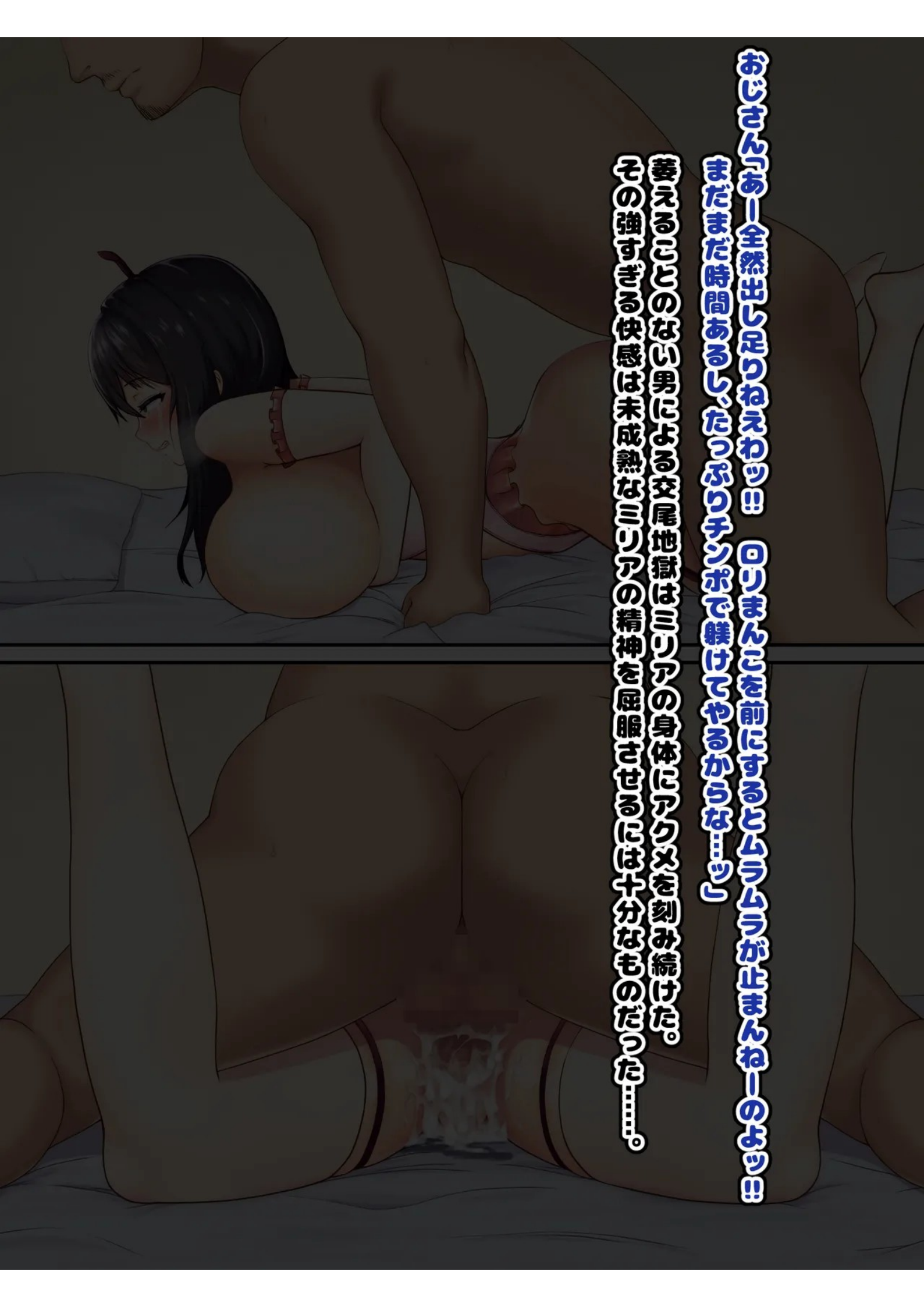
ぐりっ

1/7

ド...



ミリア「うぎっ♡ふーっ♡
うーっ!!
そんなっ……ことはっ♡♡」



おじさん「あー全然出し足りねえわッ!!　ロリまんこを前にするとムラムラが止まんねーのよッ!!
まだまだ時間あるし、たっぷりチンポで騎けてやるからな……ッ」

萎えることのない男による交尾地獄はミリアの身体にアクメを刻み続けた。
その強すぎる快感は未成熟なミリアの精神を屈服させるには十分なものだった……。

後日 ミリアの家
「ミリアちゃんーあそぼーっ」
「ミリアぶえっ!!」



聞き慣れたその声は紛れもなく友達のものだった。
今までのミリアだったら喜んで出迎えに行っただけだが今は違う。
今日は両親が不在の日。つまりあの男と交尾をする日なのである。
既に何度も中出しをされミリアの膣はとろけきっていたが
何とか窓までたどり着く。

ミリア「んあっ!♡ きょうはあっ♡
あそべらいいのぉ♡♡」
友達「ええーそうなの? 残念」



おじさん(大事な用事ってなんだろうなあー?
おっと赤ちゃんの素が漏れてるじゃないかッ
蓋をしないと!!)
会話を聞いていた男はミリアのマンコから溢れ出る精液を満足そうに眺め
小声でささやく。
「あっ...」



男はこの状況を楽しむようにミリアの尻入腰を打ち付け始める。
ミリアんほおっ♡ちゅーっ!! ラララ交響の音とどいちゃううう♡♡♡
ミリアがオナホにされてるのバいちゃうよあッ♡♡♡



友達 「何か変な音聞こえるけど...そこで何かやってるの?」
ミリア いぎいっ!! おおっ♡ ぱっぱがっ料理っ しでるみだいっ ふひっ♡
ミリア もっ てっだわないとあおっ♡♡♡



おじさん(ハアッハアッ!!) お友達にミリアが種付けマーキングされてるの!!
見てもらわねえとなッ!! 出すぞっ中出し!! ヲオオオオオオオオオオオオ!!



俺のチンポに馴染んでくるな
このロリまんこはッ!

おまんこ脳になっちゃったミリアにおちんぼ奉仕させてください♡♡」

交尾を求めて服従するメスを前に、精液を出し尽くしたはずの金玉は重みを増じていく。

おじさん「ああーッ!!!ミリアのムッチムチなエロボディには

何回出しても出し足りないわッ!!
絶対孕ませてやるからなッッ

ミリア「ふーっ♡ またおつきくなってる…♡」

おじさんのおちんぽでパンパンされるのだいしゅきなのおお♡♡」

ミリアはかつて敵対していた男の子供を宿すために自らベッドへ向かい
愛液で満たされている膣を開く……。

ミリアを固定するように覆い被さった男は、ぐゅっぐゅと腰を落とし、
腫肉の感触を楽しみながら奥まで突き入れる。

「ミリア」ふぎい♡♡♡♡♡「これじゃっ♡♡♡おちんぽっ♡♡♡きもちいっ♡♡♡ふーん♡♡♡」
深いところまで入る♡♡♡♡♡

んお♡♡♡

ユッッ

ドチ

スプ♡♡

ぐち♡♡♡

ギゅ♡♡

ぴん♡♡

ぴん♡♡

ギチギチに勃起したチンポは子宮の周りをねちねちと回して、
快楽神経を刺激する。

「おじさん♡ハァッ♡ハァッ♡」安産型のデカケツと激狭な子宮口は、
小作りセッパはさすがに♡♡♡「めっちゃ締めつけてきやがる♡♡♡」

ミリア「あひいッ♡」
ミリアの弱いとこバレちゃってるのおおッ♡

おっ♡おっ♡
イグッ♡
イグウウウツ♡
フーッ♡フーッ♡

本気交尾しゅごッ♡♡
またイチやううッ♡♡
イクッイクッ♡♡!!

又子

ばちゅん♡

ぬぽ♡

ズ
チ

パン

パン

気を抜くと暴発しそうになっちゃうッ!! 孕ませるッ!! 孕ませるんだッ!!

ミリア「ぐんっ!! おじさんのおちんぽどんどんおつきなってるのわかりやう♡♡♡」

赤ちゃん授かりたいのぉ♡♡
赤ちゃんと素っぴん♡♡

ミリアをママにしてくだひゃい♡♡
溜めてとろけさせて♡♡

赤ちゃん授かりたいの♡
赤ちゃんと素っぴんのおし♡

ミリアをママにしてくだひ♡
達々とママのやづい♡

メスガキの子供マンコに一滴残らず

出すぞッ出すぞッ孕めッ孕めッ受精しろッッ!!」

妊娠するには幼すぎるミリアだったが、度重なるアクメによって生殖機能を強引に覚醒させられていた。ママになる準備を整えた子宮は強い遺伝子を求めて降りていきどろっとした子種汁を受け入れる。

フュノレレッ

ビュルルッ

ドク

どい

2nd

[illegible]

「びゅーっびゅーって赤ちゃんの部屋にあちゅいの出たりゆのおおツ♡♡」

おじさん「ブーッ!!」 ミリアの子宮を……ッ 俺の精液で満たしてやる……ッ!!

飲み干セツ!! 孕めツ!! 受精しろツツ!!

男のケダモノ精子はミリアの卵子を受精させようと群がっていく。



ロリまんこをじっくりと堪能したチンポが引き抜かれると子宮に入りきらなかった子種汁が溢れ出てくる。その光景を見たミリアはメスとしての役目を全うできたという多幸感に包まれていた。

ミリア(ふひひ♡) おじさんに赤ちゃんの素たくさん中出しされた♡♡♡♡♡
ミリアは悪い人の赤ちゃん妊娠しちゃうんだ♡♡♡♡♡

おじさん「フツッ!!フツッ!!」スゲー搾り取られたわッ!!

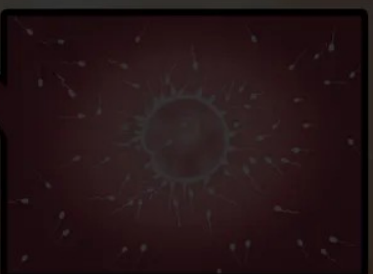
親が居ない日だけ交尾するんじゃ全然やり足りねーし明日からは放課後毎日俺の家に来い! 精液漬けにしてやるからなッ!!

ミリア「はひひ♡♡♡ 変態ロリオナホのミリアで毎日性処理してくだひゃ♡♡♡♡♡」

こうして正義の味方に憧れた少女の夢は消え去ったのだった……。

ミリア「町の平和を守ることより交尾を優先しちゃう

雑魚魔法少女のミリアは悪いおじさんに一生性奉仕活動を
続けると誓いますっ♡♡♡」



おわり